

## 都市部の就労継続支援 B 型事業所を利用する精神障害者の通所継続のプロセスと必要な支援；質的研究

研究分担者 砂見緩子（帝京大学・医療技術学部・教授）  
研究代表者 八重田淳（筑波大学・人間系・准教授）

### A. 研究目的

精神障害者の一般就労をめぐっては、就職後 1 年の職場定着率が 49.3%と低水準にあり（障害者職業総合センター，2017）、体力や症状の特性といった制約により、中長期的に安定した働き方の維持が困難であることが課題となっている（厚生労働省，2017）。

障害特性ゆえに一般就労が困難である、あるいはかつて困難であった精神障害者にとって、就労継続支援 B 型事業所（以下、B 型事業所とする）において、就労や生産活動の機会を得る意義は大きい。精神障害者一人ひとりの適性に応じた能力を開花・発揮、あるいは再活性化させて、地域でのその人らしい生活を実現するための重要な契機になりうるからである。

しかし、主たる利用者を精神障害者とする B 型事業所の現状では、利用者が必ずしも就労や工賃向上への意欲をもっているわけではなく、また、一般就労と同様に B 型事業所への通所の不安定さといった利用者のもつ特性は、通所の初期だけではなく中長期的にみても深刻であることが示された。一方、通所の継続という観点からは、利用者が自らの意思で通所できることが重要になると示唆された（砂見・八重田，2020）。

そこで、本研究では、B 型事業所を利用する精神障害者が、通所の初期の段階から通所に対してどのような思いを抱きつつ、どのようなプロセスを経て通所の継続に至るのかを探究し、通所継続への支援を考察することとした。

### B. 研究方法

#### 1. 研究デザイン

半構造化面接法による質的記述的研究とした。

#### 2. 調査対象者

都市部の 4 つの B 型事業所を利用する精神障害者で、調査当時において通所日数の安定している利用者 10 名とした（表 1）。

なお、ここでいう通所日数の安定とは、利用者本人と B 型事業所との間で締結した日数で、数年

にわたり通所を継続できていることとした。

通所日数については、すべての利用者が充足感をもっていた。たとえ週に 3~4 日の通所の利用者であっても、平日の他の曜日を通院日、ヘルパー訪問日、体調を整える休養日として充てており、物理的に増やすことができない状況にあった。

平均工賃月額については、ケース G、ケース H を除く利用者は、充足感をもつか、あるいは生計を同居家族に頼るなどの経済的に困っていない状況下にあった。また、生活保護受給者はいない。

いずれの利用者も、生理的状態が安定していることに加えて、過去・現在・未来の自分のイメージについて語るができるなど、病態は安定している状態にあると推察された。

#### 3. データ収集方法

データ収集期間は、2021 年 1 月 9 日~2 月 2 日の期間であり、半構造化面接を 1 人あたり 30 分程度で実施した（25 分~51 分、平均 33 分）。主なインタビュー項目は、B 型事業所の利用や工賃に対する思い、働きがい、一般企業就職への関心、B 型事業所利用の阻害・促進要因とした。

#### 4. データ分析方法

調査対象者の同意を得た上でインタビューを録音し、逐語録を作成した。逐語録から、研究目的に関連する重要な語句や文章を分析単位として抽出し（データ）、前後の文脈を確認しながら意味を解釈し、分類・体系化した（コード化）。

#### 5. 倫理的配慮

本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会の承認を受けて実施した（課題番号第東 2020-81 号）。

表1 調査対象者の概要

ケース	年代	性別	通所期間	疾病分類	通所日数/週	平均工賃月額	婚姻	世帯	一般就労希望	一般就労経験
A	50	男性	1年	統合失調症	3日	1,200円	無	家族と同居	無	有
B	40	男性	7年	発達障害	3日	7,000円	無	家族と同居	無	無
C	30	男性	5年	適応障害	4日	17,000円	無	家族と同居	有	無
D	20	男性	2年 6か月	統合失調症	5日	55,000円	無	家族と同居	有	有
E	40	男性	1年 9か月	発達障害	5日	65,000円	無	独居	無	有
F	60	男性	9年	統合失調症	4日	60,000円	無	独居*1	無	有
G	30	男性	6年	統合失調症	5日	70,000円	無	家族と同居	無	無
H	40	男性	10年 6か月	統合失調症	4日	10,000円	無	家族と同居	無	有
I	50	女性	10年 4か月	統合失調症	4日	25,000円	無	家族と同居*2	無	無
J	40	女性	6年	統合失調症	5日	65,000円	無	家族と同居	有	有

\*1 厚生年金受給

\*2 遺族年金受給

### C. 結果

B型事業所を利用する精神障害者の通所継続のプロセスの主要概念をまとめた(表2)。なお、本文中では、コードを「」で示す。また、表中では、各コードを構成する代表的なデータを逐語録から抜粋し、逐語録の行番号とともに掲載する。

#### 1. ルーティンをもつことによる通所に対する懸念の軽減と、現実的な目標設定

通所の初期において、B型事業所を利用する精神障害者は、B型事業所の職員や主治医と「通所日数についての約束」を行い、通所を開始していた。しかし、身支度、通勤、仕事場、仕事内容への苦手意識や不安が集積し「通所に対する懸念」が

大きくなると、「通所日数についての約束」の効力は失われ、「通所行動が困難」になっていた。この通所行動が困難になる傾向は、通所日数の締結についての利用者本人の自己決定の関与が少ないほど、強くなると推察された。また、通所の初期に「体力への不安」を認識しており、通所日数や将来にむけての「現実的な目標を設定する」ことが通所を継続するうえで重要となっていた。

一方、決めた時間に早寝早起きし、決めたルートで通勤し、決めた曜日に通所し、決めた時間に出勤し、毎日同じ作業を行うといった、毎週、毎日、同じ行動を繰り返すような「ルーティン」を持ち、習慣化できるようになると「通所に対する懸念」が減り、「通所への抵抗感」が少なくなってい

た。なかでも作業内容においては、能率を求められずに、他者との比較もされずに「自分のペースでできる作業内容」であることや、利用者本人にとって「わかる作業内容、できる作業内容」であることが「作業に対する苦手意識」を取り除き、「通所への抵抗感」を少なくするうえで重要となっていた。

その後、作業内容への慣れに伴う疲れにくさや体力の向上にともない、「通所日数をステップアップ」するかたちで通所を継続していた。

## 2. 利用者本人にとっての作業の価値や通所の意味づけを見出すことによる通所継続の強化

作業を通して、褒めてもらう、感謝される、認められる、工賃が得られる、美味しいものが食べられる、健康になる、といった作業に対する肯定的評価や報酬を得ることや、役立つ仕事をしている、自分ができる（できることが増えた）という満足感、作業に対する集中力と没入感覚、将来に役立つ期待、作業に伴う達成感、といった作業そのものへの価値や達成感を得ることなど、利用者にとって固有の「作業の価値」を見出すことが、通所へのモチベーションにつながっていた。

また、通所に対して、生活リズムをつくる、居場所として楽しい、社会とのつながりを保ちたい、仕事と思って通所している、といった利用者にとっての固有の「通所の意味づけ」を見出すことが、利用者にとっての価値をもつ目標の設定につながり、より強い通所へのコミットメントにつながっていた。

## D. 考察

ここでは、B型事業所を利用する精神障害者の通所継続のプロセスと必要な支援について考察する。

通所の初期段階では、ルーティンをもつことによって通所に対する懸念や通所への抵抗感を少なくすることが通所を習慣化するうえで重要となっていた。ルーティンとは、習慣的・定型的な手続きや仕事のことであるが、B型事業所を利用する精神障害者にとっては、毎週、毎日、同じ行動を繰り返す、この行動によって、余計なことを考えるエネルギーが不要となることにつながっている。また、通勤や作業内容に対してのやりづらさや抵抗感が少なくなり、これさえあれば大丈夫という心の安定につながる平常心を養うことにつながっている。地域で生活する精神障害者のライフストーリーとして、生活の規則を作りながら自分なりの

規則に則って生活を構築し、それを実践することに満足感や達成感を得ることが、精神障害者の自尊心を維持する支えとなっていることが示されている（伊藤，2020）。また、自尊心とは認識された自分の姿に対する評価であり、QOLや社会生活技能と正の相関を、スティグマや精神症状と負の相関をするものであるため、利用者にとっての通所を利用者の生活の一部として位置づけ、利用者が安心して生活できるまでのルーティンといった規則性を築くための支援が重要となる。

一方、作業内容においては、自分のペースででき、利用者本人にとってわかる内容やできる内容であることが作業への苦手意識を取り除き、ひいては通所への抵抗感を少なくするうえで重要となっていた。B型事業所での精神障害者に対する支援として、作業能力、効率を重視しすぎない支援を意識しなければならないことが示されている（山根，2020）。また、サービス管理責任者からみた精神障害の特性に応じた支援内容としては、利用者の作業の失敗に対する不安を払拭するための安心できる環境の提供や、利用者のニーズや能力に応じて作業内容を選択できるジョブマッチングの仕組みが重要であることが示されている（砂見・八重田，2020）。本研究結果と併せてみても、通所の初期段階では、利用者の生産活動に対する意欲を見極めたいうで、利用者のニーズや能力に応じて作業内容や作業ペースを利用者自身の意思や判断で主体的に選択できるような作業環境を整える支援が重要であると裏づけることができる。

また、体力への不安を考慮した現実的な目標を設定することや、作業内容への慣れに伴う疲れにくさや体力の向上にともなって通所日数をステップアップすることが通所を継続するうえで重要となっていた。サービス管理責任者からみた精神障害の特性に応じた支援内容としては、利用者自身がそのときどきの体調や能力を認識できるように自己覚知を促すことや、利用者自身で現実的な選択を行えるように促すような動機づけ面接の提供といった支援が重要であることが示されているが（砂見・八重田，2020）、本研究結果と併せてみても、通所に対する懸念事項やそのときどきの体調や体力を認識できたり、利用者が安心して生活できるまでのルーティンといった規則性を築くための、利用者の自己覚知の促進をはかるための支援が重要であると裏づけることができる。また、B型事業所での精神障害者に対する支援として、継続的な通所の目標にはじまり利用者に合わせて段階的な介入を意識することが大切であると示されて

いるように（山根，2020）、通所目標日数や、目標とする事柄を細分化し、少しずつ習慣化できるように支援することが重要となる。

通所の初期段階を越え、通所が習慣化され、一定期間の通所を継続できるようになると次の段階を迎える。この段階では、作業の価値や通所の意味づけを利用者自身が見出すことによって通所へのモチベーションや通所へのコミットメントにつながることが通所を継続するうえで重要となっていた。利用者固有の作業の価値を見出すことが通所へのモチベーションにつながることから、作業に対する価値観や考え方を納得して受けとめられるといった、自己理解の促進をはかるための支援が重要となる。

B型事業所での精神障害者に対する支援として、利用者の利用目的に応じて、一般就労移行にむけての支援と居場所役割としての支援とのその両方に目配りする必要性が示されている（山根，2020）。本研究結果においても、利用者の通所目的は、生活リズムをつくる、居場所として楽しい、社会とのつながりを保ちたい、仕事と思って通所している、とさまざまであった。利用者固有の通所の意味づけを見出すことが、利用者にとっての価値をもつ目標の設定につながり、より強い通所へのコミットメントにつながることから、通所や利用目的に対する考え方を納得して受けとめられるといった、自己理解の促進をはかるための支援が重要となる。

## E. 結論

### 1. B型事業所を利用する精神障害者の通所継続のプロセス

通所の初期段階では、ルーティンをもつことによって通所に対する懸念や通所への抵抗感を少なくすることが通所を習慣化するうえで重要となっていた。一方、作業内容においては、自分のペースででき、利用者本人にとってわかる内容やできる内容であることが作業への苦手意識を取り除き、ひいては通所への抵抗感を少なくするうえで重要となっていた。また、体力への不安を考慮した現実的な目標を設定することや、作業内容への慣れに伴う疲れにくさや体力の向上にもなって通所日数のステップアップにつながっていた。

通所の初期段階を越え、通所が習慣化され、一定期間の通所を継続できる段階では、利用者固有の作業の価値を見出すことが通所へのモチベーションにつながっていた。また、利用者固有の通所の意味づけを見出すことが、利用者にとっての価

値をもつ目標の設定につながり、より強い通所へのコミットメントにつながっていた。

### 2. B型事業所を利用する精神障害者の通所継続に必要な支援

通所の初期段階では、通所に対する懸念事項やそのときどきの体調や体力を認識できたり、利用者が安心して生活できるまでのルーティンといった規則性を築くための、利用者の自己覚知の促進をはかるための支援が重要である。また、通所目標日数や、目標とする事柄を細分化し、少しずつ習慣化できるように支援することが重要となる。さらに、利用者の生産活動に対する意欲を見極めたうえで、利用者のニーズや能力に応じて作業内容や作業ペースを利用者自身の意思や判断で主体的に選択できるような作業環境を整える支援が重要である。

一定期間の通所を継続できる段階では、作業に対する価値観や考え方や、通所や利用目的に対する考え方を納得して受けとめられるといった、自己理解の促進をはかるための支援が重要となる。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

## 引用文献

伊藤文子. (2020). 地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症の人びとにおける自尊心の維持に関するライフストーリー研究. *語りの地平*, 5, 45-68

厚生労働省. (2017). *障害者雇用の現状等*. <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000178930.pdf> (閲覧日：2020年2月5日)

障害者職業総合センター. (2017). *障害者の就業*

状況等に関する調査研究.

<https://www.nivr.jeed.or.jp/download/houkoku/houkoku137.pdf> (閲覧日 : 2020 年 2 月 5 日)

砂見緩子, 八重田淳. (2020). 都市部の就労継続支援 B 型事業所における精神障害者に対する支援の現状と課題; 質的研究 (八重田淳, 令和元年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業) 研究報告書, 31-38)

山根俊恵. (2020). 精神障害者の地域支援に関する研究～就労継続支援 B 型事業所の役割～. *日本セーフティプロモーション学会誌*, 13(1), 18-21

表 2. B 型事業所を利用する精神障害者の通所継続プロセスの主要概念

コード	データ
通所日数についての約束	月、水、金という、通所を、一応、約束してて。(A3) 入った頃は週 4 日で、午前中、半日でした。・・・職員に言われました。(D5)
通所に対する懸念	前の日とか、明日、あそこに行かなきゃいけないとかいうと気になって、何ていうか、準備しないかっていうか、神経質的な感じが残ってるので。(A374) 行きたくないなって思ったときに、なんか、途中で不安が高まってしまうんじゃないかとか、途中で引き返してしまうんじゃないかとか、そういう感じはあります。(B359)
通所行動が困難	行けたのに、きょうは、こっちの理由で行けないっていう。諦めたり、すぐ折れるようなことになっちゃう。(A406) 出勤にかかる時間が 2 時間近くかかってしまって。(C311) 朝起きて、支度をして、あと、バスに乗ったり、電車に乗ったり、そういった基本的な生活リズムをつかむのに、最初までできるっていうのもなんかおかしんですけど、そういうリズムに乗っていくのに精いっぱいというか。(I8)
体力への不安	(事業所に通所した当初は) そのときは、少しでも稼ぎたくて、午後もやろうと思ったんですけど、体調を崩しやすい。(D8) 前職、ちょっと嫌な形で辞めて、まだショックを背負っていた部分もあったりとか、あとは、社会に対する不安がすごくまだ強くって、どうもだから体力的にちょっと 5 日が出るのがしんどいかな (E6) (通所を始めた当初の) 最初は週 2 日で、1 日間を空けて通っていたのですが、それでも疲れがひどくなったので。(G131) 立って仕事をする体力がなかったんです。最初。だから、ちょっときつかったんで、また途中でやめちゃった部分があったんですけど (H272)
現実的な目標を設定する	ちょっと 5 日が出るのがしんどいかなというふうに、(職員と) 相談し合って、最初のうちは 3 日という形を取らせていただいたと。(E7) 今、整えている時期なんですけど。それがきちんとできるようになったら、もう一回、障害者雇用で就労はしたいなっていうふうに考えてます。(C307)
ルーティン	(体調を整えるためには) 8 時に寝ることと、7 時までカフェインを取ることを終えましょうという、それをやりましょうかということにして。自ら言ったんですよ。昔は気にかけてなくて、なんでこんな体調悪いのかってずっと考えて悩んでいた時期があったので。今は随分解消されましたね。(H200) 夜は、ベッドに入るのは大体 10 時半ぐらいって決めているんですけど (J30) 作業が始まる 1 時間ぐらい前に到着して、少し気持ちを落ち着けたい部分があって、それで 5 時に(起床することに) なってます。(J42) 今の事業所に慣れるまで、やっぱり、どのバスで、どっち回りで行くかとか、そういうのとかいろいろ、作っていったんですけど。(A375) 月曜から木曜 4 日連続で勤めて、金、土、日って連休なんですけど。ちょうどいいかなという感じで。(H37) ルーティンがあるとちょっと落ち着く感じがします。(J48)
通所への抵抗感	プログラムとかで、嫌だとかいうのはないので。毎回、同じ内容なので。・・・別に抵抗はなく。・・・出られるかなっていう感じ。(A14) やっと抵抗なく、嫌だっていう、なんか、疲れるとかいう通勤が、やっと普通に続けられるような感じ。(A19) (現在の事業所が) 過ごしやすいついていうか。(仲間との) 関係が。話せたりする。(D230)

(次頁に続く)

コード	データ
自分のペースでできる作業内容	やっぱりその人その人の健康状態もあるし、だからそこのことを考えれば、責めるわけにもいかないしね。だから B 型はその人のペースでやっていけるから、私も自分のペースでやってるんですね。(F175) 作業しても、自分のペースでやる。速いも遅いも、その人にあるから、この人は速いからって、別にその人に合わせて速くやるつもりもないし。自分のペースでやっていければという。(F184) 自分なりのペースで仕事ができる環境を整えてくれるということがありますよね。(G151)
わかる作業内容、できる作業内容	単純だからこそ、続けられていると思うので。(B153) 働きがいは、私でもできる仕事なので、仕事自体については全然満足している部分ありますけどね。シール貼ったりが多いんですけど。整理箱はシール貼ったり、折り癖を付けたりするんですけど、そういう作業も慣れているし。今、パソコン作業をやってますけれども、それもデータ入力だけなので、私にもできるので、全然楽にこなせている感じなので。(H77)
作業に対する苦手意識	やりづらさみたいなのが精神的にあったとして。そういうのが、だんだん、同じ作業をずっと、2時間とかやっていくと、そういう嫌な気持ちがなくなってきた。少し覚えるというか、そういうふうな状態です。(B157) 同じ作業を長い時間やっている、だんだん慣れが出てきたりとか、そういうの、1日の中でもあると思うんです。そういうふうに、あまり、やりづらくなるようなことが減ってきて、少なくなってくると、やって良かったっていうのを感じます。(B128) いつも同じ内容じゃないってところに最初ちょっと慣れるまで戸惑うので。(I33) やったことがあるのであれば、こんな感じだったかなと思出すんですけど、最初のものとかになるとやっぱり緊張しますよね。慣れた頃にはもう終わりの時間になってきたりとか。(I37)
通所日数をステップアップ	だんだん訓練の内容に慣れてきて、疲れにくくなってきたので増やしました。(G11) 最初のうちは半日、午前中で終わったり、慣れてきて1日にしたり、少しずつ増やして行って、今、週4日になってます。(I5)
作業の価値	褒めてもらったりとか、感謝されたりとか、そういうのが、働きがいがあります。(D147) いろんなことやってくれますねって言うことができるのが、すごくうれしくて。(E88) 工賃の額だったりとか、やった分だけもらえるっていう、そのモチベーションもあります。(E38) 幸せて、おいしい物、食べてるときです。これがあるから(美味しいものを食べてるときに幸せがあるから)やめられないなっていう、やっぱ仕事は続けたほうがいいなって。(E310) 作業やって、頑張ってるっていうか、マイペースでやってきたことが、健康状態も良くなったし、精神的にも安定できるような感じになってきた。(F43) この仕事は子どもたちのために役立っているんだという、それが働きがいですね。(G47) 自分ができると思うと楽しいです。(D243) 作業していると、不安も吹き抜けて、あまり考えないで作業を集中してやるっていうことを心掛けて。作業してることで、すごく精神的に安定できることが、すごく良かったんですよ。(F12) こういうのを積み重ねていけば、将来ステップアップする、役に立つだろうと思うので、そういう点では幸せですね。(G91) 出てきて作業して帰る頃にはそのもやもやがなくなるから、そういった面でやってよかったなっていうふうな気持ちになります。(I84) きょう、これで今週は終わった、あとは寝るだけだ。(E40)
通所の意味づけ	精神的安定のためとか、生活リズムとか、そういうことかな。(F89) 居場所としてとか、楽しい所っていうので。(A88) 社会とつながりを保ちたいというのがあるので。少しでもお役に立てているならうれしいなというところで。それで、ちょっとしたお小遣いをいただいているかなという考えでいます。(H83) 私はここでやってること、仕事だと思ってるんですよ。責任感イコール、モチベーションっていうのも一つありなかな。(E99)